

見直しによりリストから除外された種

分類群名：哺乳類

No.	目名	科名	種名	学名	国 リスト	県 リスト 見直し前	理由
1	真無盲腸目	モグラ	ヒメヒミズ	<i>Dymecodon pilirostris</i>		不足	調査結果により、生息域は限定的であるものの、生息適地においては確認頻度が高く、安定した個体数の存在が示唆された。

備考

国リストのカテゴリーは令和8年2月末時点

見直しによりリストから除外された種

分類群名：鳥類

No.	目名	科名	種名	学名	国 リスト	県 リスト 見直し前	理由
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>		準	近年、特に大きく個体数が減少してるとは判断できない。
2	キジ	キジ	ヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>		準	近年、特に大きく個体数が減少してるとは判断できない。
3	フクロウ	フクロウ	フクロウ	<i>Strixuralensis Pallas</i>		準	近年、特に大きく個体数が減少してるとは判断できない。
4	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i>		準	近年、以前より個体数が増加している状況がある。
5	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	II	準	以前に比べ観察する機会が増加している。
6	スズメ	ムシクイ	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>		準	近年、特に大きく個体数が減少してるとは判断できない。
7	スズメ	ヒタキ	コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>		準	以前に比べ観察する機会が増加している。
8	スズメ	カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>		準	近年、特に大きく個体数が減少してるとは判断できない。
9	ハト	ハト	アオバト	<i>Treron sieboldii</i>		不足	県内に広く分布している種であることが分かってきた。
10	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>		不足	近年、特に大きく個体数が減少してるとは判断できない。
11	スズメ	キバシリ	キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>		不足	不明な点はあるが、個体数が減少しているとは判断できない。
12	スズメ	ホオジロ	クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>		不足	近年、特に大きく個体数が減少してるとは判断できない。

備考

国リストのカテゴリーは令和8年2月末時点

見直しによりリストから除外された種

分類群名：爬虫類

No.	目名	科名	種名	学名	国 リスト	県 リスト 見直し前	理由
1	カメ	イシガメ	クサガメ	<i>Mauremys reevesii</i>		情報不足	<ul style="list-style-type: none">・十分な生息数の確認・外来種である可能性が議論されており、ペット由来と考えられる外来系統の侵入も確認されている

備考

国リストのカテゴリーは令和8年2月末時点

見直しによりリストから除外された種

分類群名：魚類

No.	目名	科名	種名	学名	国 リスト	県 リスト 見直し前	理由
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	ミナミスナヤツメ	<i>Lethenteron hattai</i>	II	準	河川の砂泥中に潜行しているために、かつては捕獲例が少なかったが、電気ショッカー等を使用した調査などで河川本流や支流に多く生息することが明らかとなった。(和名・学名は2025年に変更)
2	コイ	カマツカ	ツチフキ	<i>Abbottina rivularis</i>	IB	不足	濃尾平野に生息するが、近年は長良川支流や木曾川のワンド等に多数見られる。さらに、遺伝的解析では近畿地方の個体群との差異が見られず、本来岐阜県に生息しなかった国内外来魚と考えられるため。
3	コイ	カマツカ	イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>		準	調査が進み、木曾三川の中流域に多く生息することが確認されたため
4	ハゼ	オクスデルクス	チチブ	<i>Tridentiger obscurus</i>		準	以前はほとんど生息が見られなかった長良川下流域においても、近年生息が確認されるようになり、生息範囲がやや回復していると考えられたため

備考

国リストのカテゴリーは令和8年2月末時点

見直しによりリストから除外された種

分類群名：昆虫類

No.	目名	科名	種名	学名	国 リスト	県 リスト 見直し前	理由
1	チョウ	トガリバガ	チョウセントガリバ	<i>Tethea ocularis tanakai</i>		不足	隣接他県の記録で本県では未記録
2	チョウ	シャクガ	シロオビコバネナミシャク	<i>Neopachrophilla albida</i>		不足	県内での記録があり、多くの発生が期待される
3	チョウ	シャチホコガ	カバイロシャチホコ	<i>Ramesa tosta</i>		不足	記載文献の誤同定
4	チョウ	ヤガ	カギモンキリガ	<i>Orthosia nigromaculata</i>		不足	発生地では個体数が維持される
5	チョウ	ヤガ	オンタケクロヨトウ	<i>Apamea ontakensis</i>		I	アルプスクロヨトウと同一種になる
6	コウチュウ	コガネムシ	キモンエンマコガネ	<i>Onthophagus solivagus</i>		I	偶産種の可能性が高い
7	コウチュウ	オオキノコムシ	ミイロムネビロオオキノコ	<i>Microsternus tricolor</i>		準	低山地の照葉樹林が生息域で、個体数は増加傾向にある。
8	コウチュウ	ハナノミ	オオオビハナノミ	<i>Glipa shirozui</i>		準	もともと記録は少ない種。本県では生息環境は広いと思われる。
9	コウチュウ	カミキリムシ	トラフカミキリ	<i>Xylotrechus chinensis</i>		準	養蚕の衰退とともに見られなくなったが、野生の桑がある場所ではまだ見られる。本種は桑の栽培とともに日本に移入された移入種との疑いがある。
10	コウチュウ	カミキリムシ	タニグチコブヤハズカミキリ	<i>Mesechthistatus taniguchii</i>		準	本県では生息範囲はやや狭いが、カラマツを宿主に近年は個体数が増加傾向にある。
11	コウチュウ	ゾウムシ	ムネビロイネゾウモドキ	<i>Dorytomus notaroides</i>		準	ドロノキに依存して安定的に生息していると思われる。
12	コウチュウ	コメツキムシ	キスジホソクロコメツキ	<i>Ampedus kisuji</i>		不足	県外産地と環境の差が大きく、同定の再検討を要するため
13	コウチュウ	コメツキムシ	キボシヒゲブトコメツキ	<i>Drapetes torigaii</i>		不足	近年隣県の愛知県では比較的普通に採集されており増加傾向にあると思われる。
14	コウチュウ	カミキリムシ	タキグチモモブトホソカミキリ	<i>Cleomenes takiguchii</i>		不足	本県では、記録の少ない珍しい種であるが、これは本種が南西日本に分布の中心をおく種で、分布の端にあたるのが要因であると考えられ、減少傾向は確認できない。

備考

国リストのカテゴリーは令和8年2月末時点

見直しによりリストから除外された種

分類群名：貝類

No.	目名	科名	種名	学名	国 リスト	県 リスト 見直し前	理由
1	ニナ（中腹足）	エゾマメタニシ	ヒメマルマメタニシ	<i>Bithyniakiusiuensis</i> S.Hirase	II	不足	外来種と認定

備考

国リストのカテゴリーは令和8年2月末時点